



はちのす

木戸小学校学校だより
令和6年2月21日
No.278
在籍児童数395名
令和6年2月5日現在

防災に向けて力を合わせていきましょう！

校長 貝沼 浩晃

令和6年は能登半島地震で幕を開けました。津波警報による避難と避難所設営では、保護者や地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。また、被災にあわれた皆様にはお見舞いを申し上げます。

津波警報の発令とともに、当校は避難所を開設しました。約千人の地域の皆様が整然と避難をして、翌朝まで避難所を運営しました。避難から避難所開設、そして閉鎖に至るまで整然と行われたことは素晴らしく、木戸地区の皆さんの防災意識の高さを感じました。今回は、今年度の木戸小地区の防災の取組を振り返ってみます。

<コミュニティや学校での避難訓練の実施>

10月にはコミュニティ協議会主導で地域合同の避難訓練を実施しました。自治会ごとに避難経路を確かめながら学校に避難をしました。学校に着いたら非常階段から屋上に上がり、津波避難のコースを確かめました。この度の地震では、この訓練が大変有効でした。そのイメージがあったからこそ、多くの方がすばやく避難できたのでしょ

う。本年度に実施した地震想定

<子どもは防災について学んでいます！>

の避難訓練や引き渡し訓練も、地域の皆さんの協力を得て実施しています。当校は非常時には外部に設置した非常階段の入口を蹴破って屋上（4階）まで一気に上がることができます。屋上スペースは広く、避難所備蓄倉庫も4階（屋上）にあります。これらは利用する人が機能を知ってこそ価値があり、日頃の訓練がとても大事です。

児童には学年に応じて防災の学習を行っています。9月の学習参観では、学校全体で防災の学習を行いました。また、4学年の総合的な学習の時間では、災害や避難の方法について体験を通して学習をしています。避難所で使用する段ボールのベットに寝てみたり、ペットを同伴したときの避難の仕方などを学習しました。今回の避難では、子どもが「避難しよう！」と大人に積極的に話したそうです。毛布や水を配るときには、高学年の児童や中学生が手伝ってくれたとも聞いています。子どもの頃からの学習が重要であることを再認識しました。



4学年総合での防災学習の様子

<顔の見える「お付き合い」の大事さ>

木戸小学校区の地域の皆さんとは、訓練だけでなく、日頃から顔の見える範囲でお付き合いがあります。これは災害などのときにはとても心強いことです。例えば、放課後や土曜日に子どもが遊ぶスペースを提供する「木戸っ子ゆめ広場」があり、運営や子どもの見守りを地域の方々が支えています。地域の方が学習に参加する場面も多いです。このような日常的なかかわりが、いざというときに力を発揮します。

当校の百五十年間の歴史を振り返ると、新潟地震の際には、学校に数週間に渡って地域の人々が避難したそうです。大きな災害を地域の皆様とともに乗り越えてきた歴史があるからこそ、整然とした避難ができたのでしょ